

花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会議事録（案）

日 時：平成 25 年 12 月 26 日(木)午後 3 時 50 分～4 時 30 分

場 所：刑部岬展望館多目的室

出 席：戸井（会長）、渡邊（副会長）、花PJ事務局（企画政策課：小倉、伊地知）、
花PJ会計（加藤）、NPO光と風（平澤、石井、高橋、貝田、近藤、船倉（千
葉科学大））、iLab（小川、横田）、NPOみどりネット（齋藤）

以上14名

戸井会長より次の報告があった。12月1日に植栽した花壇について、水道ポンプの設置ができ、皆様の協力もあって花畑らしくなってきたが、予想通り背の高い植物は風ですぐに倒れてしまった。これからの行事日程について、事務局は千葉大との調整も含め、早めに決めて、関係者・協力者の皆様に連絡して欲しいとの要望が出された。

事務局より次の説明があった。未だに千葉大とは十分に意思疎通が図れていない。これ以上、花PJが千葉大と同じスタンスで同じ目標でやっていくには無理があるようだ。千葉大はこれ以上このプロジェクトの活動を広げていく意思がないように感じている。3.11以降、千葉大とは独立して花PJの活動を進めて行く体制が望ましいのではとの意見が示された。

渡邊と船倉が参加した花博申請のプレゼン資料について説明があった。プレゼン審査委員の質問を踏まえ、今後の助成金申請をしていく上で、スケジュール、植栽する場所の地図、面積、苗木の種類、経費計画（本数・単価）、ボランティア、議事録等が必要であった。千葉大から情報協力がなく、それを安易に期待していたため、種々問題が生じたとの実情が報告された。

渡邊副会長より、千葉大との意識の溝は埋めるのは難しいので、花PJ協議会の組織運営を見直して、明確に独自の方針を打ち出して行く必要であるとの見解を示した。そのため事務局の体制を改編・強化して、実際に作業を担えるようにしていく必要があるとの提案があった。貝田より、遊歩道清掃整備作業を通じて、事務局が企画政策課である点に違和感がありとの意見が出された。企画政策課より、花PJのスタートがNHKより市へ直接に話がきた経緯上、事務局となったが、本来、この様な活動は市民が中心となり、それを市がサポートするスタイルであるべきであり、市からの助成金をもらうPJ事務局が市役所内にあるのも、違和感があるとの発言があった。関連して、事務局から、花PJで協賛用チラシとコミュニティーガーデンの看板を募集しているが、本日の意見交換を踏まえて作成して欲しいと依頼があった。

「3・11集い」を花PJの一環として位置付けた具体的なイベント内容とそのため
の行程表及び花PJ事務局組織の再編成案を会長、副会長、事務局で取りまとめること
になった。来年1月23日(木)に円卓会議に先立ち「花PJの会議」を開催し、その結果を
受けて円卓会議で、全体へ周知することになった。

次回会議：平成 26 年 1 月 23 日(木) 午後 2 時～

場 所：飯岡福祉センター 研修室

以上（記録：NPO光と風事務局）